

ゴルフ業界の展望

(2023年3月14日(火) 播磨圏域ものづくりプラットフォーム セミナーより)



第一ゴルフ株式会社
専務取締役
入江 道弘氏



ゴルフ産業の歴史

日本のゴルフの夜明けは1901年。約120年前に兵庫県神戸市の六甲山に初めてゴルフ場ができました。イギリスの貿易商アーサー・ブルム氏が自身の別荘の横に4ホールのゴルフ場を作ったのが最初です。現在の神戸ゴルフ倶楽部で、1920年には垂水ゴルフ倶楽部の前身となる舞子ゴルフ倶楽部や鳴尾ゴルフ倶楽部、1932年には廣野ゴルフ倶楽部ができました。当時、三木市の金物工業試験場に、廣野ゴルフ場で使うグリーンカップとかアイアンヘッドを作ってほしいという依頼があり、神崎郡の刀鍛造技術を持つ森田清太郎氏に相談、日本初のアイアンヘッドづくりが始まりました。その後、日本ゴルフ、森田ゴルフが創業。戦争を経て、高度経済成長と共に受注が増え、姫路のアイアンヘッドが脚光を浴びるようになりました。1960年には弊社を含む15社で姫路商工会議所内に姫路ゴルフ器具製造同業組合を発足し、昭和40年代には全国のアイアンヘッドの約70%を製造する生産地として全国に知られるようになったと言うわけです。

アイアンヘッドの製造方法

1960年当時は、アイアンヘッドを作る工場がたくさんありました。その後、職人さんが独立し、神崎郡市川町の方にたくさん開業されたと聞いています。弊社は、1958年に父の入江純吾が「第一ゴルフ器具製作所」を創業しました。将来のゴルフ人気を予想して、オリジナルクラブを製造、直売を始めたもので、これが西日本でのゴルフ専門店の始まりと言われています。



当時の工場

アイアンヘッドには、鍛造と鋳造という製造方法があり、姫路では殆どが鍛造で作られています。一本一本手仕事で少量生産、熟練工じゃないとできない世界です。鋳造は、昔は台湾が多かったですが、最近是中国が多く、大量生産ができるようになってきました。コストは鍛造の方が少し高いですが、その分、打感がすごく柔らかく、フィーリング

がすごくいいので、お客様の好みに合わせることが可能です。今は、お客様のご要望が強くなってきていますので、鍛造のクラブの評価が高まって、多くのゴルファーの方に愛用されています。

| | 鍛造 フォージド | 鋳造 ロストワックス |
|-----|-------------|---------------|
| 素材 | 軟鉄 | ステンレス |
| 数 | 少量 | 大量 |
| コスト | 高い | 安い |
| 設計 | シンプル | 自由 |
| 打感 | 軟らかい | 硬い |
| 調整 | 自由 | 不可 |

ゴルフ業界の展望

ゴルフ専門店 大型量販店 ネットショップ ゴルフ工房



業界では、1960年代から80年代はゴルフ専門店が中心でしたが、30年程前からは量販店が出現、近年ではネットショッピング、ゴルフ好きのオーナーによる工房ショップも増えています。若い方にアウトドアスポーツとして受け入れられ、既製品ではなかなか満足しない本物志向のお客様も多くなっていますが、業界全体では、グローバル化、海外生産の影響もあり、厳しい状況になっています。現在、姫路では8社、市川町では16社が頑張っておられます。2022年12月には業歴50年以上の鍛造の会社が廃業されました。後継者がいないことと従業員の高齢化でなかなか継続することが難しい、そういった問題があったようです。他の方に聞いても、やはり従業員の高齢化、人手不足が一番の問題と言っておられました。現在、世界のゴルファーは6,600万人 (R&A) と言われています。アメリカが1位、日本が2位で、日本のゴルファーは700万人ぐらい。日本のゴルフ場は全国で2,200コース、兵庫県には167コースと多くあり、皆様のような素晴らしいゴルファーがたくさんおられます。姫路のゴルフ産業が地場産業として頑張っていける大きな要因だと改めて思いました。今後、皆さんに喜んでいただけるように、新しい情報をしっかり発信して、皆様のゴルフの上達と飛距離アップを意識して頑張ってください。